

## 【市街地等でのハナレザル出没対応編】

### ■ハナレザルの特性

ハナレザルは一般的に単独のオスや複数頭のオスのグループであることがほとんどですが、まれにメスの場合があります。ハナレザルのうち、人や人の生活圏に慣れた個体が市街地に出没します。被害の緊急性や出没したサルの特性（オス、メス）に応じて対応策を検討して下さい。

ほとんどのハナレザルはオス、まれにメス。オスの出没は自然解消することが多い

オスがハナレザルとなる時期

非交尾期	交尾期
春～夏	秋～冬
群れから分散 ↓ ハナレザル化	メスを求めて 群れに集まる

オスは交尾期にメスを求めて群れに集まりますが非交尾期になると分散してハナレザルとなります。そのため、非交尾期である春から夏にかけてハナレザルが増加します。ただし、オスのハナレザルは交尾期になるとまた群れに集まるため出没が一過性で自然に解消する傾向がみられます。

ハナレザルのうち人や人工物に慣れた個体が市街地に出没。オスとメスで特性が違う

ハナレザル	定着性	攻撃性
単独オス または オスグループ	多様  ※出没が一過性で交尾期の到来とともに消失場合が多い	多様
単独メス または メスとその子ども	高い	強い  ※特にアカンボウを連れている個体は攻撃的

オスのハナレザルの特性は多様ですが、まれに発生するメスのハナレザルは定着性が高く、攻撃的である傾向がみられます。特にアカンボウ連れのメスは攻撃性が強いので注意が必要です。

## ■市街地に出没するハナレザルの対応

### ➤住民への注意喚起

サルの生息地ではない地域で突発的にサルが出没した場合は、住民の安全確保が第一となります。チラシ、回覧板、地域巡回、有線放送等によって注意喚起します。

- 不用意にサルに近づかない
- サルの目をみない
- 威嚇されたら走って逃げない、目をそらして後ずさりして下がる
- 大声をあげたり、棒を振り回してサルを興奮させない
- 追い払う際は一人で行わず、人を呼んで複数人で追い払う
- 餌をあげようとしない
- 人身被害の危険がある場合は、不要な外出は控え戸締りを励行、児童は集団で登下校する
- サルに噛まれたり、ひっかかれたら感染症の疑いがあるため病院で受診

### ➤出没情報の収集

出没した情報を適切に収集することで対策に活用できます。住民等からの通報情報を収集しましょう。通報された情報は次の様式で記録し、出没地点は地図情報で記録しましょう。

### 通報された情報の記録



## ハナレザル出没状況記録票

管理番号：	記入者： _____
通報（情報提供）者の情報      氏名： _____      連絡先（任意）： _____	
<b>出没した日時</b>	
年月日	年                      月                      日
時間	午前・午後                      時                      分
<b>出没した場所</b>	
住所	_____
場所	森林・田畑・道路・宅地周辺・庭・屋根・その他（ _____ ）
※地図上の出没地点に、記録票と対応するよう管理番号を記入してください	
<b>ハナレザルの情報</b>	
何頭？	_____
見た目は？	大・中・小・極小
写真・動画は？	あり・なし
<b>被害の有無</b>	
被害は？	人身被害・生活被害・農業被害・被害なし・その他（ _____ ）
<b>被害の内容</b>	
[人身被害]	
何人？	_____
性別は？	男性・女性
年代は？	幼稚園・小学生・中学生・高校生・大人（年代 _____ ）、高齢者（年代 _____ ）
負傷部位は？	_____
何をされた？	咬まれた・引っ掻かれた・飛びつかれた・ 引っ張られた・体当たり・威嚇・その他（ _____ ）
処置方法は？	病院に行った・何もしてない・その他（ _____ ）
[生活環境被害]	
被害物は？	家・小屋・屋根・ベランダの物・庭の物・車・ペット・家庭ゴミ・その他（ _____ ）
何をされた？	侵入・糞尿・騒音・壊された・汚された・持っていかれた・ 散らかされた・その他（ _____ ）
[農業被害]	
被害作物は？	野菜・果樹・穀物・その他（ _____ ）
[その他]	
執着物は？ （イヌ・ネコ・人工物など）	_____
備考欄	_____

## ➤行政による対応

対応の内容は緊急性によって異なります。以下を参考にしてください。

緊急性		通報記録	現場確認	住民への注意喚起	追い払い	捕獲 (箱わな)	緊急捕獲 (装薬銃・麻酔銃)
★	単発的な出沒、人身被害の恐れがないまたは低い	▲	▲	●			
★★	同一地域で頻繁に出沒、威嚇されるなど人身被害の恐れがある	●	●	●	●	●	
★★★	同一地域に定着、人家侵入や威嚇が頻発、人身被害が発生している	●	●	●	●	●	●

●：実施、▲：必要に応じて実施

## ➤関係機関の連携

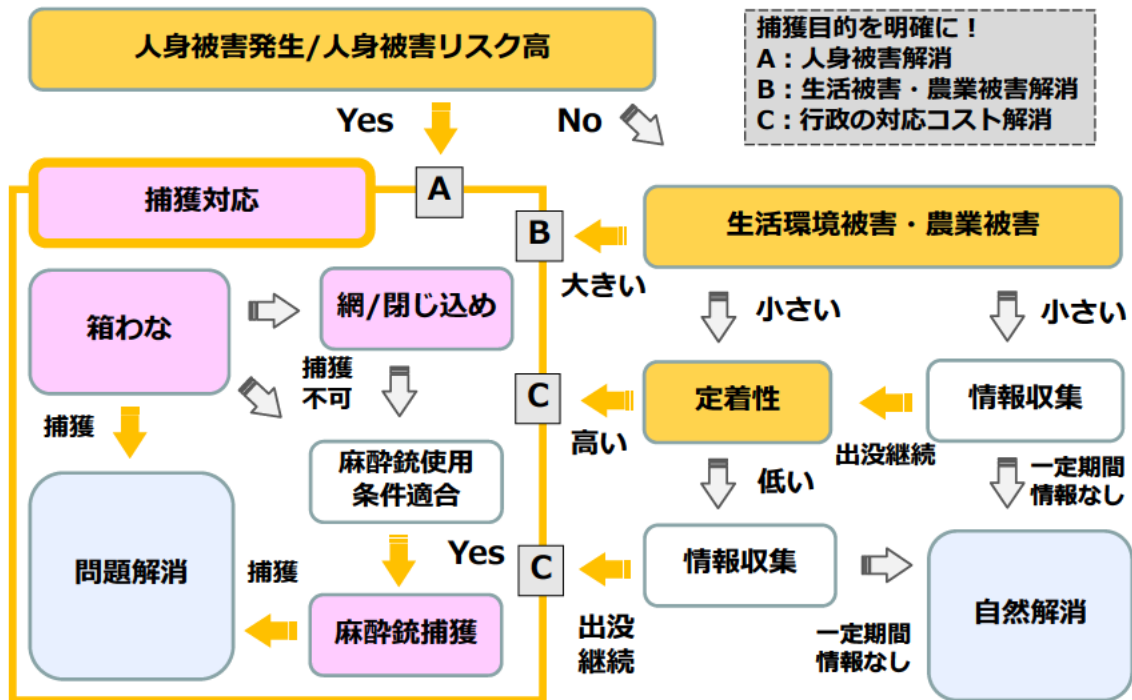
ハナレザルの対応は突発的であることや、人身被害が発生する恐れがあること、複数の市町村を跨ぎ広域に及ぶことがあるため、県・市町村・警察等の関係機関が連携して対応することが求められます。突発的な対応に備え、関係機関の役割や連携体制、対応の手順等についてあらかじめ取り決め、迅速な初動対応を行うとともに、安全対策を講じることができるよう協議や調整を進めておく必要があります。

## ➤ハナレザルの捕獲

一般的に市街地に出沒しているハナレザルを捕獲することは簡単ではありません。捕獲を実施する場合は、以下のフロー図を参考に出沒しているサルの被害状況や定着性をもとに、捕獲を実施するか検討が必要です。出沒しているハナレザルがメスの場合は定着性が高く注意が必要ですが、オスの場合は出沒が一過性で自然に解消する可能性があるため、出沒している個体の性別を確認することは、対策の意思決定をするうえで大切な作業となります。

なお、市街地で捕獲した個体は悪質性が高い傾向にあり、安易に放獣すると、さらなる被害発生につながりかねないので、捕獲後は殺処分し、山野に放逐することはやめましょう。

### 市街地に出没したサルの捕獲対応



#### ➤ 「住居集合地域での麻酔銃猟」

市街地で麻酔銃猟を実施する際には、事前に専門家等に実施の可否や安全性等について相談して下さい。なお、捕獲にあたっては、県から「住居集合地域における麻酔銃猟」の許可を得て下さい。

市街地での麻酔銃猟については「住居集合地域等における麻酔銃の取り扱いについて」(環境省)が参考となります。

<https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5/masuijyu.pdf>



(環境省, 2016)

## 【参考資料】

- ・「福島県避難 12 市町村イノシシ被害対策技術マニュアル」（復興庁, 2018）
- ・「特定復興再生拠点区域の解除に伴う新たな生活環境の安全安心確保に資する国、県、12 市町村が連携した鳥獣被害対策の在り方に関する調査事業 報告書」（復興庁, 2023）
- ・「特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（ニホンザル編・平成 27 年度）（環境省, 2016）
- ・「ニホンザルの計画的な管理のために」（環境省, 2016）
- ・「住居集合地域等における麻酔銃の取り扱いについて」（環境省, 2016）
- ・「平成 28 年度ニホンザル対策モデル事業レポート」（環境省, 2017）
- ・「第 13 次鳥獣保護管理事業計画」（福島県, 2022）
- ・「福島県ニホンザル管理計画（第 4 期計画）」（福島県, 2022）
- ・「住居集合地域に出没するニホンザル（*Macaca fuscata*）のハナレ個体の行動特性」（海老原 他, 2018）
- ・「市街地に出没したニホンザルへの対応（1）－対応の基本と事例の紹介－」（清野, 2016）

福島 12 市町村ニホンザル対策ハンドブック

2023 年（令和 5 年）3 月

発行者 復興庁原子力災害復興班

業務請負者 株式会社野生動物保護管理事務所